

こんな言動は困りもの

社会人となって一番とまどうのが言葉づかいや態度でしょう。社内でいい印象を与えるのも「何だ！アイツ！」と嫌われたりするもの、この言葉づかいや態度ひとつです。

■ 「ボク」「アタシ」は常識外

プライベートであれば「オレ」「ボク」、女性なら「アタシ」と自分を呼んでも^{ひんしゆく}鬻^{ひんしゆく}鬻^{ひんしゆく}をかうことはないでしょうけれど、ビジネスの場でこれらの言葉を使っているのは常識を疑われます。というより相手は^{あきれて}呆^{あきれて}れてしまうでしょう。自分のことは「わたくし」あるいは「わたし」と呼ぶのが正しいのではないのでしょうか。

自分の両親は「父」「母」です。「お父さん」「お母さん」とは呼びません。間違っても「パパ」「ママ」なんて呼んではなりません。ファザコン、マザコンと軽蔑されるのがオチです。

■ 言葉は正確に使う

ビジネスでは、言葉を正確に使うことが要求されます。よく間違えやすいのがことわざや慣用句です。正確な意味を知ってから使わないと、とんでもないことになります。「この仕事は、ぼくではまだまだ^{やくぶそく}役不足ですよ」などと言ったら、「もう一度国語の勉強をやり直せ」と叱られるでしょう。役不足というのは、自分にとっては^{ちからぶそく}物足りない役だということです。この場合正しい表現は「^{ちからぶそく}力不足」です。

「課長、出張ご苦労さまでした」と言ったら、課長にはきつとにらみ返されるでしょう。目下の者が目上の者に言うときは「お疲れさまでした」。これが常識です。

こういう間違えやすい言葉は、他にもたくさんありますが例を挙げたらキリがありません。あなたが普段何気なく使っている言葉を一度チェックしてみませんか。

■ 節度ある言動ができるのがビジネスマン

仕事帰りに上司や同僚の悪口を言いながら一杯、という光景はよく見ます。ストレスの発散になるのも事実ですが、度が過ぎると墓穴を掘ることになってしまいます。特に大声では相応の墓穴を掘るでしょう。

根拠の無い、私的な生活での噂を、おもしろおかしく囁き合ったり批判したりするのを慎むのが大人の知恵です。

特に政治や宗教活動、異性間のトラブルを話題にするようでは人間性を疑われます。要は節度を持った言動をしないと、いずれは自分自身が^{ちやうしょう}嘲笑^{ちやうしょう}されるハメになるということです。

誰もあなたに教えてくれませんよね。